

## 平成26年度 第3回 静岡市スポーツ推進審議会会議録

- 1 日 時 平成26年11月 5 日（水）14時から16時まで
- 2 場 所 静岡市役所静岡庁舎 9階 特別会議室
- 3 出席者 【委員】（50音順・敬称略）  
青木孝輔、石川壽將、太田仁美、瀬戸脇正勝、堀和弘、  
松崎晃、村越真、百瀬容美子、山本尚佳、渡辺典子  
【事務局】  
西ヶ谷隆司文化スポーツ部長、山田裕オスポーツ振興課長、  
秋山健ホームタウン推進担当課長、鈴木達也課長補佐兼総務係長、  
望月哲也主幹兼ホームタウン推進係長、  
望月啓生主幹兼葵・駿河施設係長、高須修主幹兼スポーツ振興係長  
齋藤康徳指導主事、佐藤知己主任主事
- 4 欠席者 池谷孝、大儀見浩介、小川菊治、佐藤伊都子、佐藤栄作
- 5 傍聴者 なし
- 6 議 題 （1）スポーツ推進計画における主な取り組み事業一覧表について  
（2）静岡市スポーツ推進計画の構成について ほか
- 7 会議内容 下記のとおり

### 司会（鈴木課長補佐）

本日は、お忙しい中、お集まりいただき、誠にありがとうございます。それでは、ただいまから平成26年度第3回静岡市スポーツ推進審議会を開催いたします。まず、お手元の資料の確認をさせていただきます。よろしいでしょうか。

次に、毎回のことですが、議事に入る前に確認事項がございます。本審議会の会議録でございますが、静岡市のホームページにおいて公開をさせていただいております。この公開には、会長と委員1名に会議録確認の署名が必要となりますので、ご了承下さいますようお願いいたします。

それでは、村越会長、議事進行について、よろしくお願いいたします。

### 村越会長

今の情報公開の件については、よろしいでしょうか。本審議会では、私のほかどなたか一名の委員に、会議録への署名をお願いしております。今回は、百瀬委員にお願いしたいと思っておりますがよろしいでしょうか。会議録が出来ましたら、後日、内容のご確認とご署名をよろしくお願いいたします。

それでは、会議をはじめるときに、本日の出席者の確認をしていただきたいと思います。事務局、お願いします。

**事務局（佐藤主任主事）**

本日のご出席は15名中ただいま9名のご出席をいただいております。審議会開催に必要な定数（過半数）を満たしております。既に本日欠席のご連絡をいただいております、大儀見委員、小川委員、佐藤伊都子委員、佐藤栄作委員からは、委任状をお受けしております。

事務局からは以上となります。

**村越会長**

それでは、早速審議に入りたいと思います。最初の審議事項について、事務局から説明をお願いします。

**事務局（佐藤主任主事）**

それでは事務局よりご説明いたします。

事前資料1をご覧ください。前回の審議会でも配布させて頂きましたが、表の右側の黄色い部分について、関係各課、関係団体に内容確認が取れましたので、内容を前回のものと差し替えいたしました。なお、黄色い網掛け部分の実施目標につきましては、出来るだけ数値ということと各課に依頼を致しましたが、事業の性質上数値目標を設定すること困難な事業もございますので、そういった事業につきましては、数値とはなっておりません。ただし、進捗管理をする際に振り返りができるようにと依頼をしております。

皆さまにこの内容で問題がないかどうかご意見を伺いたいと思います。

事務局からの説明は以上です。

**村越会長**

ありがとうございました。只今の審議事項、推進計画における主な取り組み事業の一覧表がお手元の資料1にあると思います。これについて、これから審議していきたいと思います。今日はもう一つ審議事項があり、そちらに時間がかかると思いますので、20分程度で審議したいと思います。まずはご自由にお気づきの点があれば、挙げて頂くということはいかがでしょうか。

**青木委員**

よろしいでしょうか。4ページの「スポーツツーリズムによるMICEの推進」ということで、「玉川トレイルレース in 静岡」、「南アルプス井川もみじマラソン」があります。実施目標として参加使者数交流人口増となっていますが、是非具体的な数を入れて頂きたいです。

今年の場合南アルプス井川もみじマラソンにつきましては、バスが無料になっています。我々にとっては、遠いので行きにくいのですが、それが行けるということ。その効果が出るのが来年かなと思います。今年何人、来年は何人という形で増やしていただければ、主催者側にやりがいが出ると思います。その場合、数値目標が立てやすいので、是非よろしく願いいたします。

**事務局（鈴木課長補佐）**

中山間地振興課ですね、スポーツ振興課の直接の事業ではないですが、中山間地振興課に数値を確認して入れることができればと思います。その際ですが、例えば、何人以上という表現の方

が適切でしょうか。その大会の規模もあると思いますが、山の中を走るという事で、例えば極端に言うと1万人ということはないと思いますので、出来る範囲内の数値を入れた方がいい気がします。

**青木委員**

現状は把握できると思います。現状の参加者数をそれが少なくとも3%、5%向上させるための数値を。

**事務局(鈴木課長補佐)**

毎年だんだん増えていけばいいのですが、運営上これ以上は無理なところもあるかもしれませんので確認をしてみます。

**青木委員**

聞くとところによると井川の場合は参加人数が減っていますので、だんだん無くなってしまふ不安もありますので、是非ここで挽回するために、何か対策を。今回はバスを無料にしたというのが一つ大きいと思います。その他色々方法があると思いますのでよろしくお願いいたします。

**村越会長**

ちなみにもみじマラソンの参加者はどれくらいでしょうか。

**青木委員**

何百だと思います。少し残念ですよね。せっかく井川全体が盛り上がっているのに、静岡から行かないなんて。やはり遠いから行かない事が一つだと思います。

**村越会長**

そこも目標ありきというわけではないと思います。目標を設定することで、より多くの人に知ってもらうにはどうしたらいいかを考える部分が大事だと思いますね。私も玉川に関わっていますが、先ほど鈴木さんが言っていたように山を走るので参加者の枠は大きくできないですけども、やはり次はもう少し多くということを考えることで、より充実した大会にしていこうとは考えています。中山間地振興課に相談して頂ければと思います。

**石川委員**

よろしいでしょうか。今のことに関連しますが、実施目標というのは27年度~34年度の計画ということで、一年後の目標値ということでいいのでしょうか。どのような設定でしょうか。

**事務局(鈴木課長補佐)**

ここに関しましては、8年後の目標ということですが、毎年開催しているものにつきましては、毎年変わらない目標になるところもあると思います。

**石川委員**

そうしますと、今のマラソンを例にとると、昨年 500 人ですので、目標を今年は 600 人、再来年は 700 人とする場合はどのようになるのですか。

**事務局(鈴木課長補佐)**

その場合には、目標の立て方に関しましては、今考えられる 8 年後のあるべき姿を書いて、それが越えたら目標達成するかたちになります。

**石川委員**

そうするとハードルは高くなりそうですね。8 年後というのは、なかなかいい数字が出てくると思います。まだまだ先の話なものですから、来年度の場合は、先ほどの話のように 3%、5% アップすればいい話になると思いますが、8 年後といえますと 10、20%になると思います。その辺りどうすればいいのか話を聞いていて疑問に感じました。

**青木委員**

よろしいでしょうか。実現の可能性がある目標を少し高くすればよろしいかと。静岡マラソン、市民ラジオ体操祭など、数字が具体的に書いてあるとよりやりがいを感じると思います。特に静岡マラソンの参加者満足度はどのように計るのか、非常に疑問なのですが。

**事務局(鈴木課長補佐)**

これはアンケートです。

**村越会長**

静岡マラソンを題材にとってお伺いをすると、蒲原ニューイヤーウォークは参加者 400 人、静岡マラソンは満足度 80%、これはいずれも 8 年後に同じ数値を目指そうという理解でよろしいですね。

**事務局(鈴木課長補佐)**

まず満足度につきましては、参加者に対して追跡のアンケート調査させて頂いています。それによって、マラソンの運営、おもてなし等どうするのかを来年の参考として活用していきます。その中で、80%の方が満足した大会を 8 年後も目標としていくということで、もちろんこの計画自体もローリングしていきますので、そういった中で見直していくことも考えられますが、今の時点では 8 年後の設定を考えています。

**村越会長**

蒲原ニューイヤーウォークの 400 人も 8 年後という意味でしょうか。また途中で色々ご意見が出ましたが、8 年間はだいぶ長いのでそのプロセスをどう踏むかがここには全く記載されていないわけですが、その辺りのプランはあるのでしょうか。

**事務局(鈴木課長補佐)**

年々3%増やすとあれば解りやすいですが、基本的には毎年の事業につきましては、見直しをする中で目標についても見直しています。また、状況によっては、これ以上増やせない事業もあります。例えば、静岡マラソンにつきましては今1万2千人の募集をしていますが、道路事情、大会運営のスタッフの問題、道路の幅の関係、交通規制等の制限の中で現在マックスの状態です。これが回数を重ねることによって運営側が慣れてくればいいのですが、今の時点でわからない部分もあり、現時点ではこういった目標になります。蒲原ニューイヤーウォークにつきましても、今よりも規模を増やすとなるとまた色々なことが出てきますので、そういったところを見直ししながらやっていくとご理解頂けるとありがたいです。

**瀬戸協委員**

同じようなことなのですが、例えば新規事業で2ページの「初心者スポーツ教室」は、「年8教室実施」、「障がい者スポーツの情報発信」は「平成28年度4月、市HPへのアップ」と非常に解りやすく時期も書いてあるのですが、次の「障がい者スポーツの理解促進」の「年1回の障害者スポーツの交流イベントの実施」は8年後に実施ということなのか、研究して行って8年後に実施ということなのか、少し曖昧かなと思います。年度をきちんと書いてあるものも見受けられます。

**石川委員**

この実施目標は途中での見直し行うのでしょうか。もう今回作成すればもう8年後まで同じ目標という理解でよいのか、ローリングするというものなのか。

**事務局(鈴木課長補佐)**

ローリングは行っていきます、大よそ4年ぐらいまでには。今の状況も変わってきていますので4年を目安に見直したいと思います。

**石川委員**

そうすると、4年後までの目標という理解でよろしいでしょうか。

**事務局(鈴木課長補佐)**

基本的には他の課の方々にも8年後の目標として書いて頂いております。事業によっては、毎年の目標が8年後の目標ということもあります。それぞれの書き方が違ってくるので、全て統一しては書けないのが現状だと思います。8年後に何かを設立するために準備を重ねて行って8年後に何かをつくるというのであれば、毎年開催している目標を維持していく事が毎年の目標でもあり8年後の目標でもある場合もあります。

**石川委員**

体育協会が関係する項目の内容を見ますと、スポーツ教室は何教室開催します、ということに記載しています。そうしますと、この数字は来年を一応目標にやっているのですが、8年後ではありません。ですから話に出しましたように、課によっては来年の目標を立てたり、8年後の目標を

立てたり、その辺が違うのかなという感じがします。

#### 松崎委員

数値目標を入れるのは前提として、先ほどにも出ているように8年後というのとはかなり先が長く、なおかつこれ程の項目がありますので、全てを統一しましょうというのは無理だと思います。年度毎に目標を設定して、8年後にこうなりますよという形もあれば、年々こうしますという目標でもいいですので、これは項目ごとに分かれているべきだと思います。

#### 村越会長

そうすると、その辺りもう少し整理が必要だというご意見ですね。他に関連して、目標のひき方、掲げ方、また8年の期間の問題ですとか、途中での見直し、それに伴う目標の書き方等についてご意見頂いてもよろしいでしょうか。

#### 事務局(佐藤主任主事)

一つ例ですが、今回の照会をした時に、高齢者福祉課から実施目標の書き方について相談を受けました。丁度今議論してきた事と同じ内容でして、ねんりんピックについては、年度によって種目数、人数制限が変わってしまうため、8年後だと決まった数値を立てづらいという事で、ひとまず平成27年度の目標は下にかっこ書きで、一方で全体の目標は、実施目標として出して頂いた事がありました。一例として、紹介させて頂きました。

#### 青木委員

今のねんりんピックのことですが、これは確かに年度によって違うのではっきりしない限り決まらなと思います。言えることは、県大会、市の大会の予選については何人行ってもいいのではないかということです。予選が活発になれば、当然成績も上がってくるし、派遣する人のレベルも上がってくる、そうすると全国大会でいい成績がとれる。そういった見方をすれば、数値目標に関しまして、今予選会で何人いるのを何人にしたらいいのか、そういった目標を立てれば活性化すると思います。

#### 村越会長

ありがとうございます。ずっと期間に合った目標の立て方について議論してきましたが、私の一番気になるのは目標を立ててPDCAサイクルを少なくとも1回は回すわけですね。そこをどのようにきちんとチェック・修正して次のアクションに繋げていくかということがもう少し明確になっていた方がよいのではないかと。せっかく長い8年間という期間ですから。その辺りをもう少し明確にする必要があると思います。

他の点はいかがでしょうか。項目自体は前回出てきたものとの違いはあるのでしょうか。追加や削除など。

#### 事務局(鈴木課長補佐)

6ページになりますが、「ホームタウンチームと連携した情報発信」が削除となっています。

**村越会長**

前回からの違いはここだということでしょうか。

**事務局(鈴木課長補佐)**

あとは特にありません。

**石川委員**

主な事業でそれぞれ項目ごとに書いてありますが、なかなか表現しにくい内容ですので、事業名が長いものや短いもの様々ですが出来るだけ主な取りくみ事業を1行でおさめて、事業概要で説明をしていく方が見た目もすっきりすると思います。

次の(2)推進計画素案パブリックコメント用で、いろいろな意見を出したいと思います。

**村越会長**

取り組み事業の名前をもう少し簡潔にすると、説明的な、例えば、身体障害スポーツ大会であったら、括弧の中は概要に移動するということですね。他いかがでしょうか。項目自体は、先ほど確認したようにほとんど既に皆さんにご意見を頂いておりますので、よろしいでしょうか。

一覧表の方についてはこれで終わりにして、次の審議事項にうつりたいと思います。次の審議事項は静岡市スポーツ推進計画パブリックコメント用についての審議ということで事務局の方からご説明よろしくお願いたします。

**事務局(佐藤主任主事)**

事務局よりご説明させていただきます。

事前資料2をご覧ください。こちらがスポーツ推進計画の素案となります。今後、本日の審議会の意見を踏まえましてパブリックコメントを実施します。それで最終的な形に作り上げていきます。本日はパブリックコメント用に作成したものを皆様にご覧いただきましてご意見を伺いたいと思います。それでは順にご説明いたします。1ページ目の目次をまずご覧ください。こちらを見ていただくと分かりますが、スポーツ推進計画は序章を含めまして大きく4章に分けてあります。まず序章で、スポーツ推進計画の基本的考え方、1章で今年度までの計画でありますスポーツ振興基本計画の検証、そして第2章で検証して得られたことを基に立てられたスポーツ推進計画の施策の柱について説明します。そして第3章で施策の柱に繋がる具体的な事業を述べるといった章立てになっております。それでは、各章について簡単にご説明させていただきます。

そのまま2ページをご覧ください。序章では、スポーツ推進計画の基本的考え方を示しています。今まで、皆様に審議を重ねて頂いております推進計画の構成を文章化したものが2、3ページになっていると考えて頂ければ大丈夫です。2ページは策定の目的、推進計画の位置づけという形になります。中央の図につきましては、今回の計画はスポーツ振興基本計画を継承するものであり、また現在、市で作成している静岡市第3次総合計画と連動するもの、また、国で策定されているスポーツ基本計画を参考にしていることを示したものであります。続きまして、3ページをご覧ください。こちらではスポーツ推進計画の基本方針という事で、理念、目標を載せております。これらは、4ページにあるものを文章化したものと思って頂ければ大丈夫です。続きま

して5ページご覧ください。こちらの第1章は、スポーツ振興基本計画の検証という形で、こちらはみなさんに初めてお見せする資料になります。この第1章にあたる部分につきましては、他都市のスポーツ推進計画では「現状と課題」としているところが多いのですが、前計画の検証を行うことがまさしく現状と課題を述べるということになり、また、市長からも前計画の検証をしっかり行うようにという事で話がありまして、このような形をとっております。実際に第1章の内容につきましては、市長に対しまして、スポーツ推進計画の説明を行った際の資料をもとに作成しております。具体的に内容を見ていきますと、振興基本計画には大きく3つの柱がありました。「環境づくり」、「人づくり」、「プログラムづくり」の3本の柱です。それぞれの柱で主な取り組みを振り返り、そして今後どうするのかという方向性を示しております。まず、1番の環境づくりの検証ですけれども、ここでは基本施策が2つあります。「①利用しやすいスポーツ施設づくり」と、「②新たなスポーツ環境の整備」になっております。施設づくりにつきましては、5ページの真ん中の部分にあります達成状況で振り返りを行っておりますが、おおよそ達成出来ています。また、学校施設利用者数というグラフですが、利用者数の推移を示したものになり、大体200万人を超えた高い数値を維持しています。また、次の6ページ上の学校施設利用関係では夜間照明設置割合があり、こちらと同じように高い数値で維持していると言えるかと思えます。「②新たなスポーツ環境の整備」ということで、ここでは「総合型地域スポーツクラブの全市展開」と、「広域スポーツセンター機能の整備」ということで両方とも重点施策でありました。こちらの達成状況ですが、総合型地域スポーツクラブについては、目標は20クラブの設立でありましたが実際には14クラブの設立に留まり、目標は未達成となっております。この理由としまして、6ページの真ん中の達成状況の下、4行目をご覧ください。「しかしながら、この背景には都市では学校開放利用者が元々多いことに加わりまして、体育協会等で行っております各種スポーツ教室が実施していることもあり、総合型地域スポーツクラブに特化しなくても市民が運動しやすい土壌が既に整っていることがあると考えられる」としています。また、広域スポーツセンター機能の整備について、こちら重点政策でありましたが、達成状況を見て見ますと、スポーツリーダーバンク機能、スポーツボランティアバンク機能は実際には実施できませんでした。そのため、こういったところを振り返りまして新しい事業にしていくという事にしていきます。

次に7ページをご覧くださいと、取り組み結果を踏まえた今後の方向性ということで、「①利用しやすいスポーツ施設づくり」については、今後も現在の環境を維持する必要がある、としています。総合型につきましては、ページ中段の学校施設利用者数では静岡市は政令市で市民一人当たりになると政令市でトップとなっております。すぐ下の夜間照明設置および割合を示すグラフでは、こちら政令市の中では広島市に次いで2番目に割合が高くなっています。こういった現状から、総合型地域スポーツクラブをわざわざ新規で作らなくても、学校体育施設でいいのではないかという意見もあり、それらを踏まえまして、総合型地域スポーツクラブの存在については今後も必要であるという考えのもと、スポーツ推進計画においては数を増やすのに力を入れるのではなく、今ある既存のクラブに対して力を入れる形にしたいと思っています。また、広域スポーツセンター機能に関しましても、達成出来なかった事業については方向性を見直すという形にしております。

次に2番目の柱である「ひとづくり」の現状です。こちらは、基本政策が3つありました。「スポーツ指導者の養成」、「スポーツを支える活動の支援」、「国際大会・全国大会で活躍できる

チーム・選手の育成」です。特筆すべき点として、9ページ上段の「②スポーツを支える活動支援」で、エスパルスについても書いてありますが、静岡マラソンで約2,600名のボランティアが大会を支えたということで。静岡マラソンで「する」スポーツ・「観る」スポーツとは違う「支える」スポーツのきっかけをつかむことが出来たという形にさせて頂きまして、スポーツ推進計画の「する」・「観る」・「支える」というところを意識づけが出来るような表現にしております。

次に10ページからの3番目の柱である「プログラムづくり」の検証です。ここでは、基本施策が4点ありました。「新たなスポーツ機会の充実」、「魅力あるスポーツイベント等の開催・誘致」、「スポーツ活動支援事業の充実」、「スポーツ活動による地域の活性化」です。ここでも、主な取り組み、方向性について検証をさせて頂きました。次の11ページの真ん中の全体総括ということで、「スポーツ振興基本計画からスポーツ推進計画に向けて」というところで、話をさせて頂いております。今回検証を行う上で分かったことは、振興基本計画はほぼ計画通り行われていましたが、それにも関わらず、市民の運動スポーツ支持率というのは平成21年度から比べますとほとんど変わっていませんでした。このページの下に成人週1回のスポーツ実施率が載っています。平成16年ではアンケートの実施の仕方が違うため少し高かったですが、平成21年、25年は同じアンケートで21年度が50.4%、25年度50.7%とほとんど横ばいになっております。これは、この数値が実施率の限界なのか、それとも振興基本計画の取り組み事業が市民のニーズに合っていなかったことになるかと思えます。その主な原因として、12ページをご覧くださいと、上のグラフで年代ごとにどのくらいスポーツを実施しているか示しています。30代、40代、50代の右に赤く囲ったところがまったく運動をしないことを意味しています。30代、40代、50代は40%を超える数値になっていますので、この人達に対していかに働きかけをすることが出来るかが重要になってくると一言えると思えます。その一方で同じページの下グラフですが、これはこれからやってみたい運動スポーツということで見て頂きますと、上からウォーキング、水泳、ラジオ体操、ハイキング、ジョギングが大体10%を超えるような数値になっています。大体やってみたい運動スポーツを見てみますと、お金もかからない、時間も自分の好きな時間に出来るものに市民の皆さんの興味向いている事がわかります。こういったところをいかにやってもらうかが重要になってくると思えます。

13ページを見て頂きますと、こちらでは幼児期、学校体育、社会体育の時期における運動について話をしています。真ん中のグラフでは、平成25年度の体育・保健体育の授業が楽しい男子・女子で、小学校5年生、中学校2年生のグラフを載せていますが、ここから分かる事は男女ともに小学生よりも中学生が楽しいと思う割合が減ってきて、逆に楽しくないと思う割合が増えてきていることが分かります。また、小中学校の運動能力、静岡市と全国平均の比較に関しての表を載せています。赤い網掛けの部分、全国平均より低いところ、特に数値が大きいものについては濃い赤で色分けをしています。そうすると、中学生の方でほとんど見られませんが、小学生では全国平均を下回る種目がいくつか見られます。バランスよく能力をあげる事と子供達の運動スポーツに対する興味を上げることが課題なのではないかということが分かります。こういった現状を踏まえまして、スポーツ推進計画では振興基本計画の検証をもとに既存の3本の柱を見直しまして、新たに6本の政策の柱を進めますという形といたしました。「子どもの体力を向上させる機会の創出」、「ライフステージに応じたスポーツ活動の推進」、「スポーツツーリズムの推

進とスポーツ機会の向上」、「ホームタウン活動の推進」、「マンパワーの養成・資質向上」、「スポーツ活動を推進するための支援」と新たに6つの柱としています。また6本の柱と「する」・「見る」・「支える」の関係図を、位置を変えて少しわかりやすくしています。次に15ページからは、推進計画の施策の柱についてそれぞれの柱がどういった内容かというのをさらに細かく説明しております。さらに、16ページ以降、施策の柱に繋がる具体的な取り組み、事業の一覧表を載せています。今回、パブリックコメント用にすることに際しまして、先ほど見て頂いた一覧表には実施目標を載せていましたが、パブリックコメントでは実施目標を載せないようにし、取り組み事業と事業内容のみを載せるという形式にしています。以上が、スポーツ推進計画の概要になります。今後の予定としましては、本日皆様の意見を反映させたものを来週12日の教育委員会定例会において、パブリックコメントを実施する旨の報告を行います。その後、今月中旬から一か月間、パブリックコメントを実施する予定になります。その結果をもとにさらに作りこみを行いまして、次回の審議会ではほぼ完成したものを皆様に提示できればと考えております。

また、本日の審議会に先がけまして、10月30日の教育委員会定例会におきまして事前説明を行いました。その際に出た意見が、皆様のお手元にあります資料1と書かれたものです。まず1点目、13ページ6行目の学校体育についての部分で、「学校体育では小学校において子供達が身につけるべき力がバランスよく身につけておらず、将来にわたって運動に親しむ資質や能力が育っていません。」という部分の表現がきつすぎるのではないかという意見を頂きました。次に2点目としては、16ページ下の中学校の運動部活動の充実について「部活動指導の任用」と「部活動指導員の派遣」とで任用と派遣の2段に分ける必要ありますかという意見でした。3点目は、21ページの「ホームタウンチームを活かしたまちづくり」の内容について、清水エスパルスの事が載っていますがシャンソンなど他の静岡市をホームタウンにしているチームの記載がなくてもよいですか、ということで3点のご意見頂きました。このご意見のうち、1点目と2点目につきましては、学校教育課と協議をします。そして、3点目は当課のホームタウン推進係と協議をしているところです。その中で2点目の表現については、今回ご意見頂ければと思い、要検討としております。全体の説明は以上になります。

今からのお時間でスポーツ推進計画の素案についてのご意見と教育委員会から出た意見についてのご意見を頂ければと思います。よろしくお願いいたします。

#### 村越会長

詳細な説明ありがとうございます。

本日はこの議案で終わりになりますが、終了予定時刻まで50分弱の時間があると思いますので議論をお願いします。

今教員委員会の定例会のお話をして頂きました、特に1章の部分は我々が初めて見る部分、当然検証ですので検証と2章との整合性がとれているかどうかというところも問題になってくる、それによっては若干、2章、3章の修正も必要かなと思いますが、いかがでしょうか。

#### 青木委員

私は以前市長あてに要望書を出したことがありました。それは駿府城公園の中堀の歩道に非常に石が多くてウォーキング、ジョギングをする人がケガをしやすく、膝、腰にくるという事です

ポーツ振興課に出しましたが、それは公園整備課ということで結局うやむやになっています。12ページの説明の所でウォーキング、ラジオ体操、とこれらはお金がかからなくて時間もいつでもできるということで、やってみたいスポーツであると話があり確かに人数が多いと思います。ただ、そうだと言って環境が整っていないかというところとそうでもないと思います。環境というのは、ウォーキングについてですが、ウォーキングでは大体公道でやります。公道の整備は、もちろんスポーツ振興課の担当ではないと思います。5ページにある環境づくりは、日本平スタジアムの整備、清水総合運動場の整備とか書いてありますが、残念なことにこれからやりたい多いジョギング、ウォーキングに対する環境整備がまったくない、これは非常に残念なことだと思います。ちょっとした工夫、例えば中堀の1,650mに何とかしてクッションとかあれば、膝にこないし、お年寄りが転倒して結構ケガをしているという話もありますので、そういうところを何とかして欲しいです。是非計画に書いていただければ、嬉しいなと思います。せつかく、お金もかからない、時間もいつでも出来るスポーツをやりたい人がいっぱいいるのに、そういう場所がない、決してないことはないんですけど、残念なことに走り過ぎて膝にきて辞めてしまったり、ウォーキングしても途中で辞めてしまったり、そういう話を結構聞いているので配慮を何卒よろしくお願いいたします。

#### 村越会長

ありがとうございます。私も懸念していたことですが、こうして検証が出てくると問題点がクリアになってきますね。青木委員が言われたウォーキングをやりたいと言う人が結構多いということは一つと、そうすると問題点が新たに出てきた場合に当然それに関連した事業計画も追加した方がいいだろうというご意見が出てくると思いますけど、正直どれくらい対応可能でしょうか。もし可能であれば、我々ももっと、こうした検証結果だからこうしたところも足した方がいいのではないかと色々とアイデアが出るかと思いますが、どうでしょうか。

#### 事務局（鈴木課長補佐）

ものによっても色々あると思います。先ほどの駿府城公園の周りについては、担当の課からジョギングの場としての場ではなく、あれは道であるという回答だったので、そういった場合スポーツ振興課から言っても中々変えることができません。今後もおそらく難しいと思われます。スポーツ振興課がジョギング場として整備しているものではなく、あくまでも道となりますので走ることはもちろん自由ですが、整備となると難しいです。

#### 村越会長

具体的なアクションになるとそういうことになると思いますが、8年もあるのですから、例えば行政として中々難しい面もあるかと思いますが、「～について検討する」といった表現、例えば今の話でいうと「非専用空間の活用について検討する」という項目を書き加えることは出来るのでしょうか。

#### 事務局（鈴木課長補佐）

なかなか難しいです。

#### 青木委員

要望書を持って行った時にスポーツ振興課でそういう話もありましたし、難しいのかなとは思いますが、一番の問題点は、駿府城公園は歴史があるところなので変な風にするのは困るよというのは当然だと思いますが、工夫でいろいろできるのでは。自然の石があるかのように柔らかい素材を使用するなど。例えば静岡のプラスチック技術で可能ではないかと思えます。それを持ってきて、ショックのないようにする。また駿府城公園がダメということであれば、他の所でも、例えば安倍川の堤防や河川敷など色々あると思えますが、そういった道路に柔らかいものを使用すれば、弱者にやさしい環境が出来ると思えます。それは、ランニングに限らずウォーキングや杖をついたお年寄りが転んだ場合に非常に危ないから、ということです。課が違うと無理かもしれませんが、何とか横断的に考えて発展して頂ければいいなと思えます。

#### 石川委員

今の意見に関連してですが、私達体協が管理させて頂いております西ヶ谷総合運動場に陸上競技場がございますが、その周りが柔らかいマットを敷いてジョギングできるように、膝に優しいコースを設置してあります。ですから、今のお話ですと西ヶ谷はそのような整備がされていると言えます。例えば、他のスポーツ施設の周りを整備することはスポーツ振興課で可能かどうか、そういうところを考えて頂いたらどうでしょうか。

#### 村越会長

他にいかがでしょうか。

#### 太田委員

先ほど資料①の部分で、「学校体育では小学校において子供達が身につけるべき力がバランスよく身につけておらず、将来にわたって運動に親しむ資質や能力が育っていません。」という表現は、学校の教育は何をしているのかと誤解を招きますし、特に小学校にお勤めの先生にはショックが大きいかと思えます。やはり単純にこれをぱっと見たとき、もう少し表現を変えるべきだなと思えます。実際に小学校において色々な事がやられているはずですが。授業間運動や朝・放課後の時間帯の使い方、地域スポーツへの関連性とか。ただ、実際は先ほどの数字で表されているようにやはり弱い部分が出てきます。握力、長座体前屈など。その辺は現在の子供達の様子を踏まえながら、希望的な言葉の方がよいと思えます。今、適切な表現が出ないですが、小学校の現場で努力や、課題を抱えている部分を少しくんでいきながら対応して欲しいです。

また、それとは別件ですが、利用しやすいスポーツ施設の話で、私は中島多目的スポーツグラウンドの傍に住んでおり、たまたまウォーキングで行ったところ、本当にきれいに整備されていて、楽しそうに一般の人がテニスをされていたり、子どもたちが野球の指導を受けていたり、いろいろな方がいました。確かに先ほど青木委員がおっしゃったように、走る道のハード面の整備は大事ですが、どういった人がそこを利用するのか、利用する人たちの層とかそういうものを捉えたいと思います。少し前に勤めていた場所の近くに藤枝の蓮華寺公園があり、そこでは部活動で高校生も走るし、犬の散歩をする人もいるし、赤ちゃんを乗せて乳母車を引く人など、い

ろんな人がいろんな利用方法をしているわけですが、やはり危険を感じるので高校生は出来れば山コースに行ってください、もしくは池の周りは走らないでくださいというような住み分けをすることにより皆さんが気持ちよく利用できることもあるのかなと思います。先ほどの話は現在の予算の状況や課と課の調整の仕方や地域住民の話とか、調査や根回しが必要な部分があると思うので、それを調整しながら、観光都市でもありますしお客様も観光できるかたちで住み分けが出来ればいいなと思います。

**村越会長**

この定例会の意見はどうでしょうか。いい意見のある方いらっしゃいますか。

**事務局（鈴木課長補佐）**

定例会である委員が言われた事ですが、「バランスよく身についておらず、将来にわたって運動に親しむ資質や能力を育てる必要があると思われまます。」という感じではいかがでしょうか。

**村越会長**

他に意見はありますか。

**堀委員**

これは、学校教育課の指導主事が作ったものですか。

**事務局（鈴木課長補佐）**

はい、そうです。学校教育課で教育振興基本計画を作っていて、そこからこの辺りのデータを頂いたものですが。まだ少し表現がきついでしょか。

**堀委員**

そうですね。自分でやって、自分を否定しているような感じなので、ここにあるその「学校教育では～行っていきます」は、書いてある内容は否定できないですが、やはり今言われたように将来にわたって運動に親しむためにつけるべき力が育ちにくい状況があるのは確かで、小学校だけではなくて幼児期からの積み重ねでやはり運動に親しんでいない状況が生まれていると思います。小学校でも、こちらが予期しない動きをしてそれでケガをしたり、中学校でも跳び箱で開脚とびをすると第一関節が折れてしまったり、そういった予期しない事故が発生したり、そういった状況があるのは確かで、また、中学においては、体育の授業が楽しいと思わない生徒が増えていましてと言いきられてしまいますと、いつと比較したのかと非常にショックでした。下の表を見ると、「そう思う」「ややそう思う」という数を合わせると男子が約85%、女子が約75%なので20年、30年前と比べてこれがどの程度減少しているのかという部分が大きいかなと思います。納得できる資料が欲しいなと思いました。このような状況を改善するために、体力測定などの調査結果をそのままにしないで、PDACサイクルを活用して課題改善を行うことが、結果の改善につながると思いましたし、体育の授業を好きになってもらうための授業改善ではなく、結果として好きになるのであって、体育だって学力があって、そもそも体育とは何だということになっ

てくると思いますが、それが分かってないのかなと感じました。なので、全面的な差し替えが必要かなと思いました。表現の代替案みたいなものを考えないといけないですね。

#### 村越会長

そうですね。ここで考えないと事務局が考えるという事ですよね。

#### 堀委員

これは学校教育課が考えるというより事務局が考えるものでしょうか。

#### 事務局（鈴木課長補佐）

学校教育課と話をして、教育委員会の定例会やこの審議会でこういう意見があったこと伝えてもう少し表現を変えることは可能か確認します。表自体は平成 25 年度の結果として出ているため、この表から読み取れることについての表現にはなりますが、学校教育課と話をして変えるか、本日ここでご意見が出れば、その内容を学校教育課へ伝えて了解を得ることになります。

#### 村越会長

学力の問題もそうですが、これを見ると中学校で全国並みになっているからいいのではないかなという感じもします。中学校が頑張っているのか、小学校の高学年で伸びるのか分かりませんが、その辺をひろって、「小学校では一部の体育要素について課題が見られるが、中学校では概ね全国平均を超えていると、ただし中学校においては授業を楽しいと思わない生徒が増えているとか、さっき堀委員が言われた体育の授業はあくまでも手段で目標ではないので体育の授業を通してスポーツを好きになってもらうような授業の工夫が望まれる」、という感じでどうでしょうか。ポジティブなことがたくさんあるのに全然拾えてない気がしてもったいない気がしますね。

#### 青木委員

「学校教育では小学校において子供達付ける力がバランスよく付いていくように将来にわたって運動に親しむ資質や能力を育てていく事が大切です」、という感じであればポジティブな表現になると思います。

#### 百瀬委員

確かに下の表の数字のマイナスを見なければ、薄いピンクのところはほぼ平均に近いので、これをあえて低いと、とらえなくてもいいような気がします。

#### 堀委員

次のページ、15 ページに柱が 3 つあり、どれも大事な中で「子どもの体力を向上させる機会の創出」が一番基本になることなのかなと思います。その体力向上の目標値として、体力水準が高かった昭和 60 年頃の水準を目指しますとありますが、この昭和 55～60 年は確かに運動能力も部活のパフォーマンスも高い状況もありました。この時を同じくして楽しい体育というものが、日本全国に湧きはじめてきています。なぜ、それが出てきたかという、何回も繰り返すトレーニ

ング要素ともっと楽しさを味わうというのが裏腹に出てきて、それ以降どちらかという楽しいというのが、誤った解釈、こういう表現はおかしいかもしれませんが、本当の意味で楽しいというのは質の高い事だと思いますが、表層的な楽しい体育が前面に出てしまい、トレーニング的要素が減ってきていると思います。だから、こういうことを考えていくと、例えば12ページの表もそうですが学校体育の中で「体力アップコンテスト」とか、「体育実技指導者講習会」とか、今やっている事をそのまま継続して、果たして60年代の水準を目指せるかと言うと、非常に難しい。しかも、楽しいという思いを持たせないといけないところに難しさがあり、そのために授業改善だと皆が認識しなければいけないかなと思います。40代の皆さんが中学の頃は、朝・昼・夕方にやっていると思いますので、その頃に比べるとかなり低い状況になっているので、中学になって上がったとは言え全体的なレベルが低くなった上での平均値の上なので必ずしも高くなったとは言えないです。

#### 村越会長

そうすると、13ページの下の方って、差し替えられませんか。つまり、2章の施策の柱を考えると、当然60年代に比べ低い、だから改善しましょうっていうのが本筋だと思います。そうすると、もう少しクリアになると思います。今、難しいというご意見ありましたが学校が頑張らなくちゃいけないですね。あとは、それを市がどれくらいバックアップ出来るか。学校だけの責任ではないと思います。15ページの施策の柱では明確に書かれているけれど、どう目指すのかというときにこのままでは少し弱い。例えば、パブリックコメントがついたときに、なかなか答えにくいと思います。

#### 石川委員

それともう一つ。この昭和60年代の水準が見えていないので余計分かりにくいです。

#### 村越会長

どれくらい差があるかっていうのが、資料としてありませんからね。

今大きくは2つの問題ですが、特に小学校の記述の部分は、15ページの目標の方ともからめて修正が必要かなと思います。他にはいかがでしょうか。

#### 青木委員

さきほど言われた強い高校生と弱い方とは危険だという話がありました。確かにその通りだと思いますが、逆も言えると思います。例えば、駿府城公園を走っていると、5～6人が並列で歩いてきて全然通れない事や自転車がぶつかってくる事があります。一般的にはルールがまずあり、その上にモラルがあると思います。モラル、つまり相手を思いやる心があれば、例えば、高校生が走っていて、弱い人がきた事を認識して少し方向を変えたりする、それは高校生がお年寄りに対する思いやりがあれば出来る事で、もしそれがなければスポーツをする前の段階の人であると。逆に駿府城公園をぶらぶら歩いている人は結構いますよね、歩く場所ですから。こちらは走っていてでも向こうは3、4人で並列になって全然どころともしない人たちに対しては、こちらは車道を気にしながらさっと通りますけれど。彼らに心があれば、人が来たなと思ってさっと

一列に並んだり、どうぞとしたり、コミュニケーションが取れると思います。そういった事が静岡の町に芽生えたらいいなと思います。そういう弱い人と強い人とを必ずしも分離するのではなくて、共存できるかたちにできればいいなと、それは教育だと思います。まさに学校教育。私はまだ強いですがゆくゆくは弱くなったときには、強い人が来たら避けようかと。「江戸しぐさ」をご存知でしょうか。傘を持って、すれ違う時お互い左に傾ける、そうするとぶつからない。それが江戸しぐさですが、そういうことがあればいいなと思います。自転車が来たとき自然にこうよけといて、狭い道で車が来たらさっと避けて。車もプツと感謝を込めて鳴らしていくと、非常に清々しいですよ。そんなことで、弱い人強い人を分ける必要がないかなと私は思います。

#### 渡辺委員

スポーツ推進委員の立場として我々も常に目標である市民スポーツという目標で市民の皆さんに対してスポーツの企画・募集をし、体を動かす楽しさを広めようとしています。12ページにある赤い枠の年代にも、いろんな形で呼びかけをして、チラシを作って、皆さんに体を動かす楽しさを体験して頂こうとしています。やはりこの年代の方は参加が少なく、また、子どもが小さい方は子どもを連れて来ています。働き盛りの人は中々出来ないというところで、ページ中ほどにある「運動スポーツに関して関心を持ってもらい、自分がこれからやってみたいと思う運動スポーツを实际やってみてもらうことが肝要です」は、实际やってみて分かることですが関心をもってもらうことが1番のネックで、その方法が私達も掴めないでいます。ですので、私達がするスポーツの募集ではなくて、上から4行目にあるウォーキングや水泳、ラジオ体操とか自分が手軽に週1回でもやりたいときにやるというスポーツが関心のない人たちには大事だと思いますが、どう呼びかけたらいいものか私達も苦労しているところです。いい表現があれば、と思いますが、参考となるご意見を頂けたら。

#### 村越会長

委員の方でも、事務局の方でもどうでしょうか。12ページですね。

事務局では30~50代の関心の有りようというのは、どのように把握しているのでしょうか。アンケートからはやっていないことが分かりますが、関心についても、まったく興味がない、または一部のスポーツには興味があるけどチャンスがないとか、その辺はどうでしょうか。

#### 事務局（鈴木課長補佐）

ここに載っている以外の情報はありません。今後は例えば今後オリンピックやパラリンピック、色んな大きな国際的な大会、全国大会、うちの課の地道な誰でもやるスポーツ、そういったものを上手く発信していけるようなシステム、東京や横浜のHPを見ると今どこで何をやっている、来週何曜日にやるスポーツなどの情報や静岡市で言うところのホームタウンの情報など、いろんなものの情報が集まっているサイトみたいなものあるんですけど、そういったものも一つの方法で、大きなことなので大変なこともあるんですけど、何かしらの情報があるいは大会日程、これを見るとスポーツがしたくなる、具体的にいつまでにやるというところまでは書けませんでした、情報発信が必要なのかなと思います。

#### 太田委員

30～50代というのは一番充実しているけれど忙しい時期で責任も増えてくる時期ですよ。体もホルモンや、生理的にも非常に変化していき、嫌でも老化現象が始まる。恐らく、時間がない、面倒くさいという人は、多分まだ今体に関する刺激を与えなくても問題ないし、普通に仕事も出来ている感覚もある。ただ、どこかで例えば人間ドックなどの客観的な数値を見せられたときに、はっと改めて気が付いて、自分の命に関わることが分かれば必ず時間がなくてもやりますよね。身近にそういう方がおり、以前は何でも飲んで何でも食べて、豪快に仕事をする方でしたが、お医者さんに行って気が付かれて、忙しい中でも一日1～2時間必死に運動をして、見違えるほど数値が落ちています。大きなイベントや楽しい情報を与えることも大事ですが、具体的にもっと自分が何のために運動をするのか、やっているうちに歩くってこんなに楽しいことなのか、汗をかくことがこんなに気持ちのいいことなのかということに気が付ければ、毎日じゃなくても言い訳をせずに時間を作って15分でも歩ける人が増えてくるのではないかと。そうすると本当の意味で医療費の削減が出来るなど、いい循環が始まるのかなという気もするので、働きかけの方法としてこんな楽しいことをやっていますよというのも必要ですが、民放でもNHKでもいろいろな健康情報がありますが、なぜ働き盛りの人により運動・スポーツが必要なのか、具体的にイメージ出来る情報があれば身近に感じるのかなと思います。

#### 村越会長

確かに前に佐藤委員が、運動スポーツ情報が重要だとお話されていたと思いますね。

#### 山本委員

今のお話を受けてですが、私も学校施設や県の施設に派遣されて、1時間ぐらいのストレッチや肩こり腰痛体操などのインストラクターをさせて頂いています。そうすると、ほとんど運動していない方が多いです。先日は120人ぐらい参加して頂いていましたが、継続的に運動している方は半分以下で、それ以外はほとんど運動していないという方が多かったです。しかし実際そこで1時間弱ぐらい、例えば簡単にイスで出来るストレッチを紹介させて頂くと、すごく気持ち良かったと言って頂きました。こういったことは仕事の効率にも関わってくると思います。やはり30～50代の方にもっと運動の普及を進める事は、すごく大事かなと。ただ、この中で見ると、やはり多様な年齢層やライフステージ応じたというのはあるけれども、特に30～50代の方という総括があるにもかかわらず、それがあまり計画の方に入っていないかなと思います。運動して頂くためには難しい年齢だと思いますが、例えば先ほど話のあったホームページで、30～50代の方だと運動を探そうとするとホームページを見る方が多いと思います。そういった情報環境が大事で、市で主催するイベントも毎年私も関わらせて頂いていますが、そのイベントも体育館などでやっている、そうすると知っている人だけは知っている、学校施設利用もそうだと思いますが、利用者数を延べ人数ではなくした場合、静岡は1番ではないと思います。でも年間の利用回数が多いうのは、知っている人、使う人はとにかくたくさん利用しているということだと思います。なので、知らないなどの理由で利用や参加をしていないゼロの方を1にするというところをもう少し考えられないかなと思います。

## 村越会長

今の話と少し関連して、先日人間ドックに行きましたが、待ち時間が多いですね、そこでは待ち時間にできる無料の運動教室をやっていたのでどうせ誰もいないと思って行って見たところ、やはり2人しかいなくて、2人というのが私ともう一人はジョギングしている人で、結局運動している人だけしかいませんでした。ただ、思ったことはそういったところに来る方はすごく健康志向が高いと思うので、そういう人が来る所で情報提供すればすごく響くのかなと、そんなにお金がかかる事ではないと思います。どうPRするか。ぜひ、考えて頂きたいです。

## 石川委員

5ページが一番下にある表の下から2行目のところに「高い水準を保っている」という言葉がありますけど、なぜこの高い水準という表現ができるのか、その辺りの説明がここに欲しいと感じます。それと、9ページ一番下の下から2行目、「今後は東京オリンピック…」という文章がありますが、育成選手は決まっているので「東京」という言葉を取って、オリンピック、パラリンピックとして、次のオリンピック目指した言い方をした方がいいのかなと思います。

続いて、10ページ中段「②魅力あるスポーツイベント等の開催・誘致」で、静岡マラソンについて「全国から10,000人以上の人が出走し」という表現をしています。出走者の内訳は県外から約5,000人、市外から9,000人ということで、全国から1万人以上という表現はどうか、と感じました。少し検討して頂きたいと思います。

次に、11ページ「③スポーツ活動支援事業の充実」の最後の文章で「波及を検討していきます」とありますが、これはどういうことなのか理解できなかったのも、その辺の説明が欲しいと思いました。

次に16ページ、最初の議題で申し上げましたが、主な取り組み事業の事業名を1行ないし2行で分かりやすく表現した方がいいと思います。例えば上から2つ目に「幼児から小学生を対象とするスポーツ教室を開催する」という事業名がありますが、これは「スポーツ教室開催」でいいのではないかと思います。「(1) 幼児及び小学生の運動・外遊びの推進」というタイトルになっておりますので、あえてまた事業名で「幼児から小学生」という言葉はいらないかなと、後ほど事務局に訂正した内容をお渡ししますので事務局の方で整理して頂いて、また村越会長と相談して頂ければと思います。

それと、19ページ「(1) 国際大会や全国大会開催のための支援」の最初に「全国規模のサッカー大会の開催・支援」がありますが、これと21ページの「2 ホームタウン活動の推進」の表の下から2つ目「全国少年少女草サッカー大会の開催・支援」との違いが分かりづらいです。

最後に21ページの「2 ホームタウンの活動の推進」の表の中で「(1) サッカーを活かしたまちづくり」の事業内容がありますが、これが事業の内容になっていない項目があります。例えば、「サッカーのまち静岡啓発事業」の事業概要が「サッカーのまち静岡を市内外にPRするため、啓発事業を行う」となっており、その内容がまったく載っていない、どういう啓発事業を行うのか、ですから、次のシティプロモーション推進もそうですけど、健康づくり事業もそうですし、こういった項目を見ますと、事業内容がしっかり明確に明記されていないものが見うけられるのでその辺の見直しをして頂きたいです。

#### 堀委員

先ほどき言い放しになってしまったので、13ページの学校教育の文章について、どんな文章がいいか考えてみました。「小学校では、子どもたちがつけるべき力がバランスよく身についていないことから生涯に渡って運動に親しく資質や能力が育ちにくい状況にあります。また、中学後期になると運動への苦手意識が強くなっていく事から、この状況を改善するために運動の楽しさや喜びを十分味わいながら体力の向上が図られるようにさらなる事業改善を目指す必要があります。」というような感じでいかがでしょうか、たたき台にしていいただければ。

#### 村越会長

では、参考にして頂くという事で。ありがとうございます。他にいかがでしょうか。欠席の委員からはご意見を伺っているようですので、もし言い切れないところありましたら事務局の方にお伝え頂いてもよろしいかと思います。よろしいでしょうか。それでは、これからパブリックコメントという事でそこに向けての訂正もあるとは思いますが、なかなか重い話題もあると思いますので、パブリックコメント後も含めて書き込みのところに活用頂くという報告もありました、特に目標の書き方を少し検討して頂ければいいかなと思います。あとは検証との整合性が重要かなと思います。それでは本日の審議についてこれで終了にしたいと思いますので、次回の審議日程について事務局、お願いします。

#### 事務局（佐藤主任主事）

次回の審議会の日程ですが1月中に開催したいと思います。本日の審議に内容を加えたものをパブリックコメントに載せまして、パブリックコメントで当然ご意見が出てくると思いますのでそれらを整理したものを皆様にご提示出来ればと思います。お忙しい中かと思いますが、また出席して頂きたいと思いますのでよろしくお願いいたします。以上です。

#### 村越会長

また早めに予定調整をして頂くと皆さん出席しやすいかと思います。審議の方は以上です。その他に事務局、委員の皆さんで連絡事項ありますでしょうか。よろしいでしょうか。それでは、本日の審議は全て終了いたしました。今日は貴重なご意見ありがとうございました。

#### 司会（鈴木課長補佐）

会長、ありがとうございました。また、長時間にわたりご審議をいただき、ありがとうございました。本日の会議録でございますが、会長並びに百瀬委員に内容等を確認し、ご署名をいただいたうえで、静岡市ホームページに公開させていただきたいと思います。改めてご了承くださいませよう、よろしくお願いします。

それでは以上をもちまして、平成26年度第3回静岡市スポーツ推進審議会を終了いたします。お疲れ様でした。気をつけてお帰りください。